

# 入学礼拝式に思う。

2015 年度入学礼拝式も神様の御恵みのうちに 4 月 7 日に無事終了いたしました。最終的に中学校 41 名、高校 233 名の入学生を与えられました。生徒減少期にあつて、昨年より中学校は 8 名、高校は 35 名増え、とても感謝です。中学生は全員第一志望ですし、高校生は 85%以上の生徒が第一志望で入学してくれています。特に高校一般コースで 70%を超えたのがとても嬉しいです。公立にいけるにも関わらず、また、たくさんある私立の中でも遺愛を選んで入学してくれるのは本当に有り難いことです。改めて襟をただして教育にあたらなければと思いを新たにしました。

**養育・教育の最終目標は「自立」です。**中学・高校はその最終段階です。乳幼児期は全面的に保護者に依存していました。今年から二園の幼稚園の園長も兼任することになりました。先日入園式が行われましたが、初めて集団生活に入るお子さんたちは本当に勝手気ままです。もちろんお行儀良くしているお子さんもいますが、泣いたり、走り回ったり、お母さんにしがみついたり、大変です。しかし、一年経つとずいぶん成長します。それでもまだまだ、保護者の方々の手を煩わしています。当然です。それが小学生まで続きます。

しかし中学から高校は、お子さん自身が試行錯誤しながら、迷いながら、生きていく自信と術を自ら獲得していく時期です。経験からですが、**中高時代の子どもを伸ばすための保護者のポイントが3つ**あるかなと思っています。

**1 つめは、できるだけ「見守る」ということです。**

小学校までのイメージでついつい親が口出しをする。方向づけをしてしまいがちですが、じつところ教えてください。特に気になるのは勉強面ですが、Benesse 教育研究開発センターの調査によると中学生以上になると、「勉強しなさい」の声かけより、がまんして「見守ること」、「お子さんの話を聴くこと」が効果的でしょう。さらに「親子で将来や進路について話をする（一方的に親が話をするのではなく）」ことのほうが、子どもさんの学習意欲を高める効果があるというデータがあります。

**2 つめに、他の人との比較はしない方が子どもさんは伸びるということ。**他人との比較は大人でも嫌です。比較するなら、その子自身の過去と比較してどれだけ伸びたか、できなかったことができるようになったか比較すると子どもさんは勇気づけられます。

**3 つ目ですが、結果ではなく、努力の過程をほめること。**結果が出るには長い時間がかかるものが増えてきますが、結果よりお子さんがどのように努力したかを褒めると、お子さんに忍耐力、がんばり、やる気が出てきます。「子どもの将来を本当に心配しているなら『子離れをすること』、子どものために、どこかであきらめる必要がある」とアドラー心理学では言っています。名言だと思います。

2015 年 4 月 10 日



遺愛女子高校入学礼拝式



遺愛女子中学校入学礼拝式